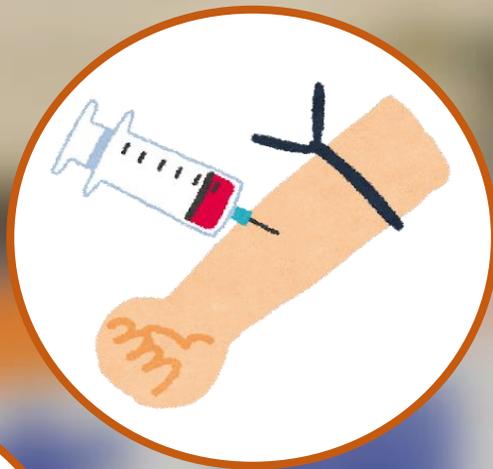


山本病院の検査紹介

いつでも御相談ください



検査について



01 Title : Anxiety
お身体のこと、気になる症状・心配なことはありませんか？



02 Title : Check
冊子で、調べたいことがないか、確認してみてください



03 Title : Inquire
質問など、お気軽に声をかけてみてください



04 Title : Consultation
医師の診察で、相談し、必要な検査の組み合わせを選択しましょう。

個々の患者さんにあったオーダーメイドの検査を組み立てます

当院は保険診療対応の病院のため、保険診療でカバーできない場合は人間ドック(自費)対応となります。

循環器セット

(心臓病・動脈硬化症など)

< 当院の検査一覧 >

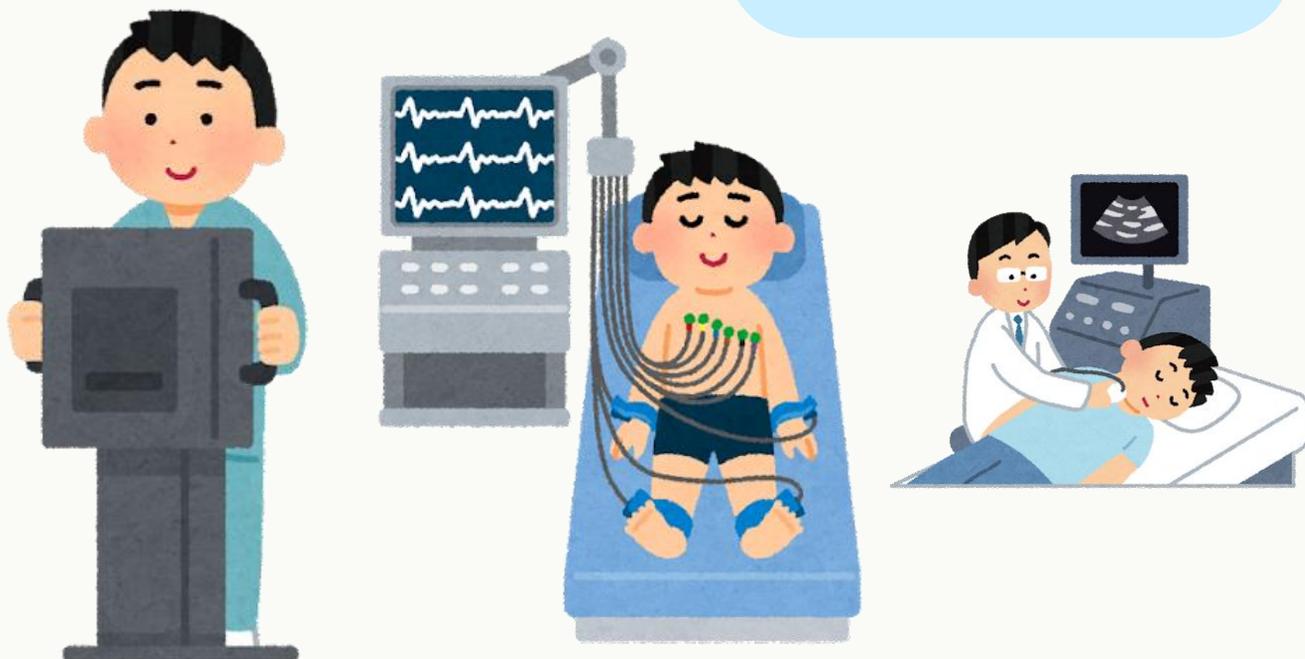
- ・心電図検査
- ・胸部レントゲン検査
- ・血液検査 (血算、一般生化学、BNPなど)
- ・心エコー検査
- ・頸動脈エコー検査
- ・血圧脈波検査 (ABI・CAVI)
- ・胸部CT検査

< こんな症状は、御相談 >

- ・胸の痛み
- ・動悸・脈が跳ぶ
- ・息切れ
- ・足のむくみ
- ・血圧が高い
- ・親族に心臓病がいる

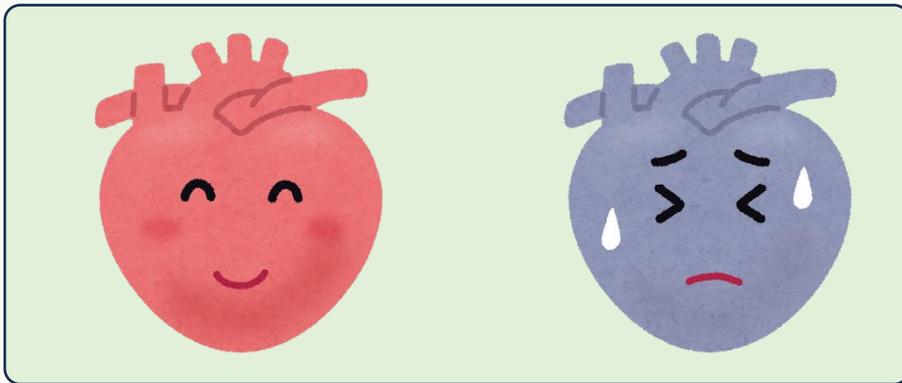
< 対象となる病気 >

- ・高血圧
- ・不整脈
- ・動脈硬化症
- ・心不全
- ・狭心症
- ・心筋梗塞
- ・大動脈瘤など



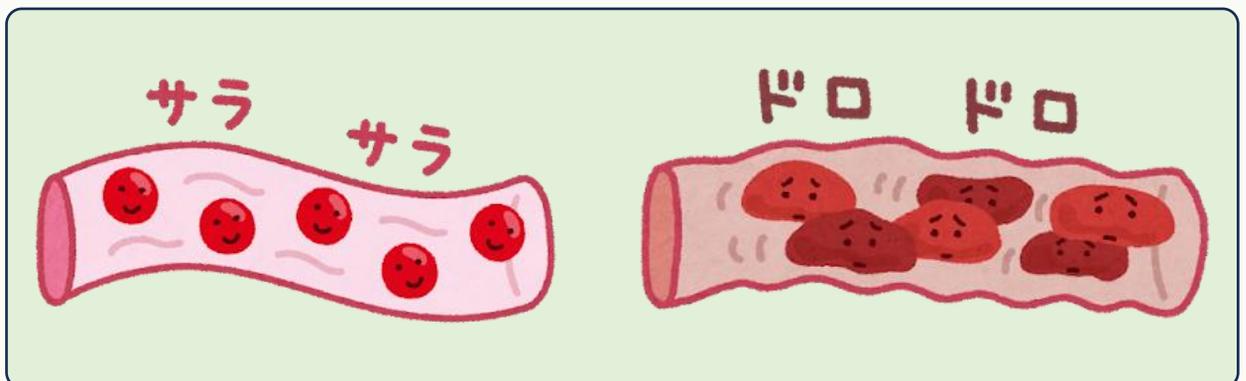
- 循環器(心臓、動脈、静脈)系とは、全身へ血液を送り出し、分配しているシステムです。
- 心臓は、毎日、規則正しく拍動しています。“規則正しく”は電気信号で、“拍動”は筋肉や弁で担っています。

この心臓の「電気信号や拍動の状態」を検査・評価することができます。



- 血管(動脈・静脈)は、血液が流れる土管と考えることができます。

この血管の「血液の流れ」や「土管の劣化状態」を検査・評価することができます。



消化器セット

(胃腸・肝臓・胆嚢・膵臓疾患など)

< 当院の検査一覧 >

- 血液検査 (血算、一般生化学、腫瘍マーカー、肝炎ウイルスなど)
- 便潜血検査
- ヘリコバクターピロリ菌検査 (血液検査・糞便検査・呼気試験)
- 腹部エコー検査
- 腹部骨盤CT検査
- 上部消化管内視鏡検査
- 下部消化管内視鏡検査

< こんな症状は、御相談 >

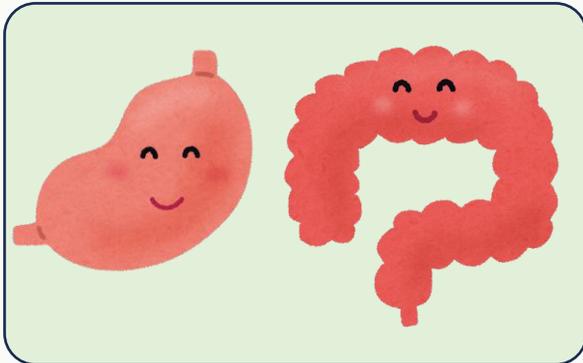
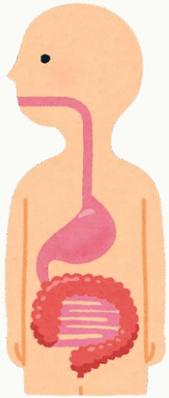
- 腹部不調
- 胃痛
- 胸やけ / 胃もたれ
- 便秘症
- 下痢症
- 親族に胃癌・大腸癌等がいる

< 対象となる病気 >

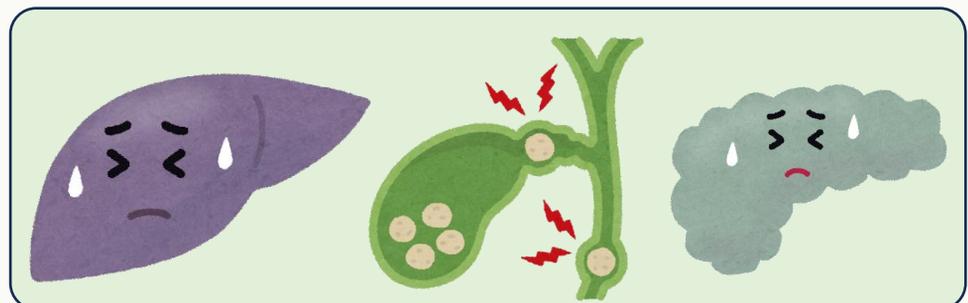
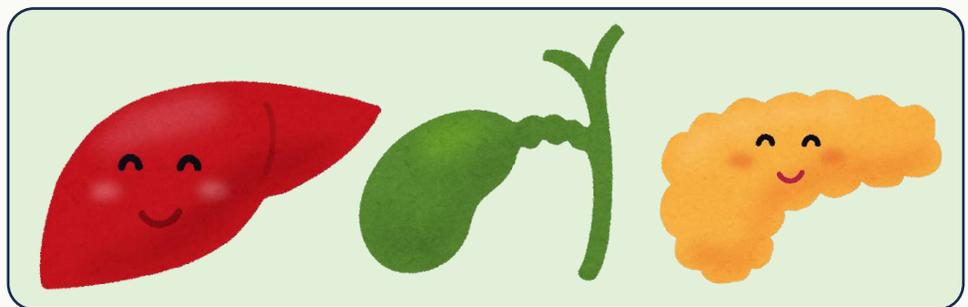
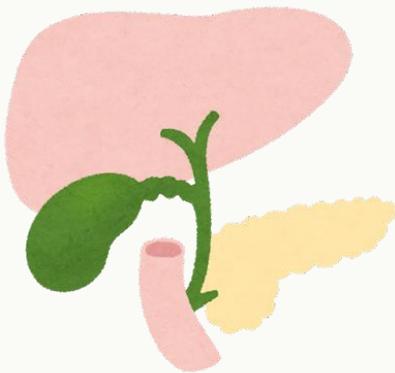
- 胃潰瘍・胃炎
- 逆流性食道炎
- 大腸癌
- ヘリコバクターピロリ菌感染症
- 脂肪肝
- 慢性肝炎
- 胆石など



- 消化器(食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓)系は、食べ物を消化・吸収するシステムです。
- 消化管(食道、胃、小腸、大腸)は、管腔構造で、食べた物を“消化および吸収する場”になります。
- この「食物の通り道の状態」を検査・評価することができます。



- 肝臓、胆嚢、膵臓は、消化および吸収を“助ける働き”などをします。
- この「肝臓、胆嚢、膵臓の形態など」を検査・評価することができます。



呼吸器セット

(肺・気管支疾患など)

<当院の検査一覧>

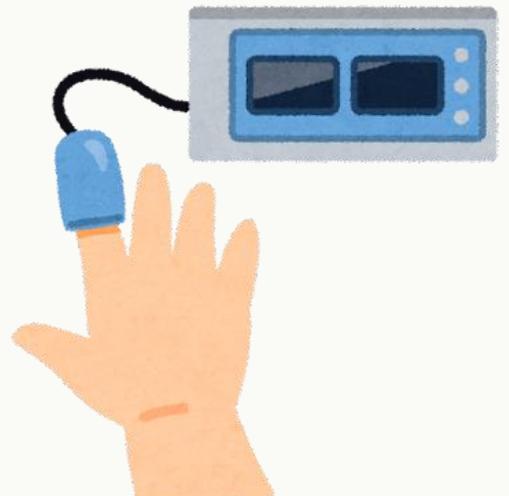
- 胸部レントゲン検査
- 動脈酸素飽和度(SAT)測定
- 胸部CT検査
- 呼吸機能検査
- 血液検査 (血算・血像、生化学、KL-6、腫瘍マーカー、アレルギーなど)
- 喀痰培養
- 喀痰細胞診

<こんな症状は、御相談>

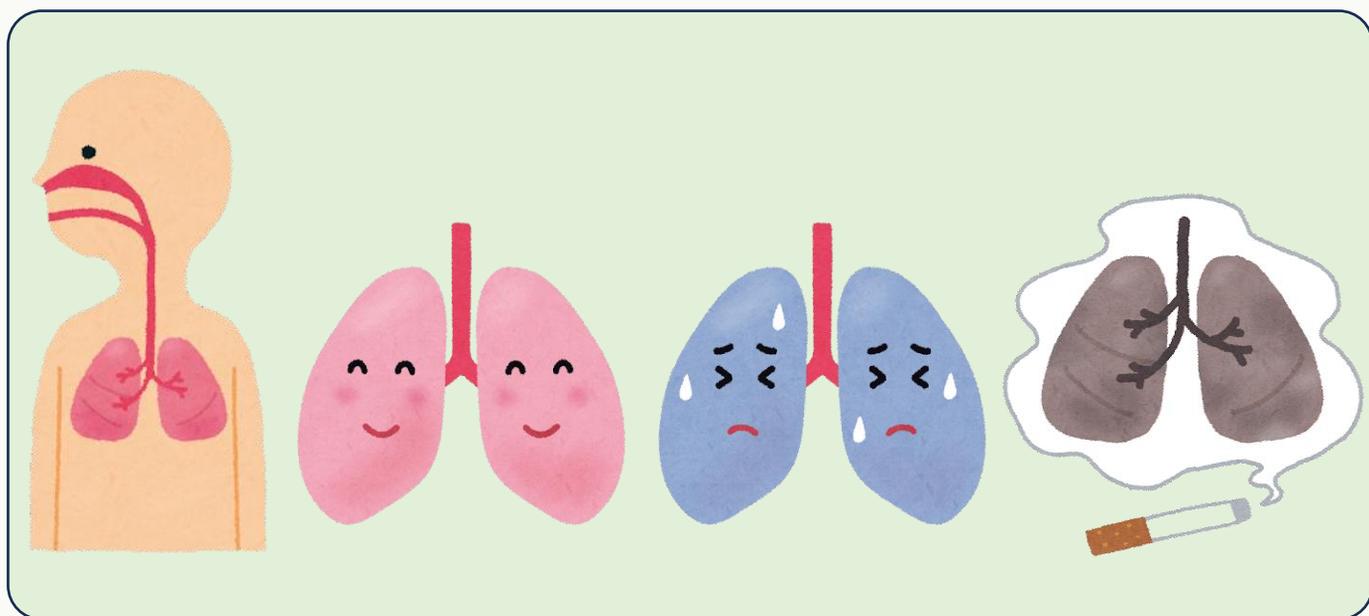
- 息切れ
- 喀痰
- 咳
- 喫煙中

<対象となる病気>

- 肺癌
- 肺気腫
- 慢性閉塞性肺疾患(COPD)
- アレルギー疾患
- 間質性肺炎(IP)



- 呼吸器(気管、気管支、肺)系は、空気中の酸素を取り込み(吸気)、身体から出た二酸化炭素を吐き出す(呼気)システムです。
- 気管・気管支は呼吸の通り道で、肺で酸素の取り込み、二酸化炭素の排出を行います。
- この「吸う・吐くの機能」、「肺の形態変化」、「身体の酸素の状態」などの検査・評価することができます。

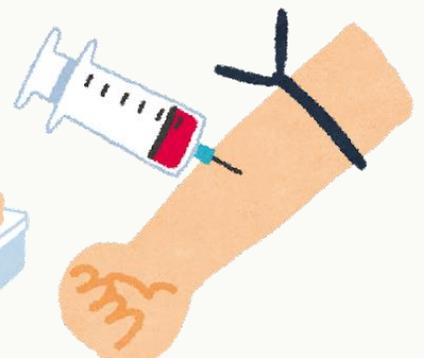


認知症セット

- ・我が国の高齢化に伴い増えているのが認知症です。認知症は患者さんのみならず、家族を巻き込むことがあり、大きな社会問題となっております。
- ・当院は、精密検査（MRI検査や脳血流シンチグラフィなど）はありませんので、評価は限定的なものですが、下記の検査評価は可能です。
- ・必要な場合は近隣の「認知症外来・もの忘れ外来」へ紹介します(下記検査をしなくても、紹介は可能です)

<当院の検査一覧>

- ・長谷川式認知症スケール(HDS-R)
- ・頭部CT検査
- ・血液検査：treatable dementia[※](次の頁を参照)のスクリーニング評価

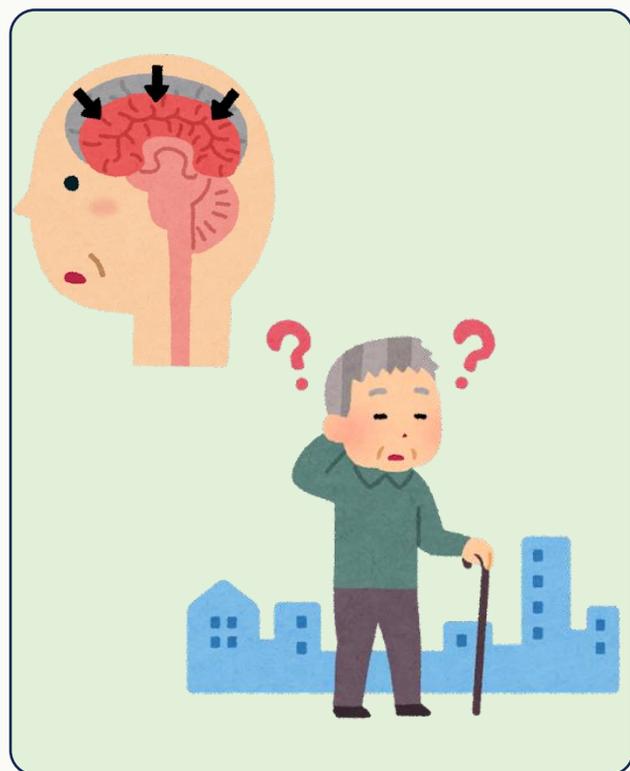
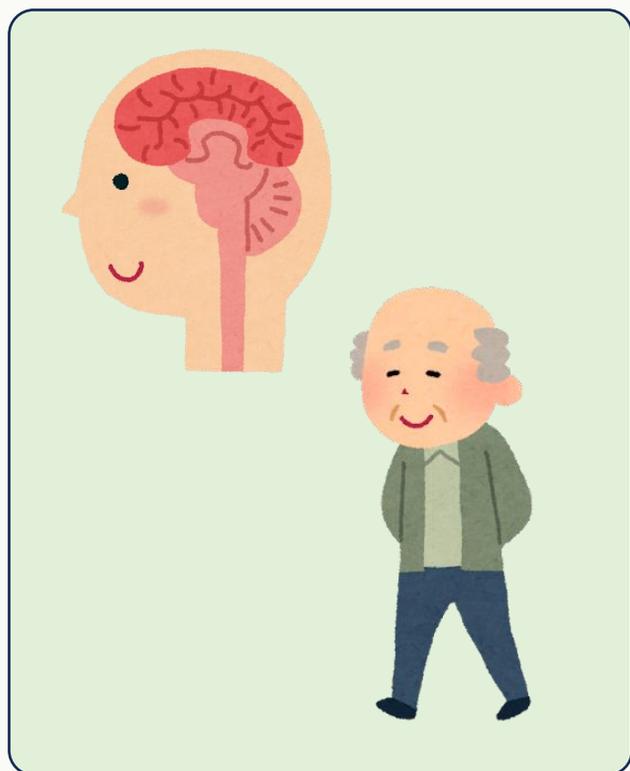


- 私たちは、日常生活を送る上で、目や耳や皮膚などで様々なものを知覚して、その情報を脳で処理(インプット)して、行動(アウトプット)を起こします。
- 脳へのインプット→アウトプットが崩れると、状況に見合った行動ができなくなります。

最も多いのが加齢に伴う認知症です。その他にも別の病気に関連した認知機能低下があり、そういった場合は、まず原因の疾患の治療が優先されます。

- 当院では、「CT検査による形態の変化」、「長谷川式認知症スケールによる機能検査」、「病気に関連した認知機能低下」などの検査・評価することができます。

(※脳MRI検査、脳血流シンチグラフィなどの精密検査はできませんので、専門的評価が必要な場合は当院から専門外来へ紹介となります)



取り扱い可能な認知症 ：Treatable dementiaとは？

※treatable dementia：

認知症の一部に”treatable dementia”という病態が含まれます。Treatableつまり、treat-(取り扱う)、-able(～できる)なので、日本語に訳すと「取り扱い可能な認知症」ということになります。

加齢に伴う認知機能低下ではなく、疾患に基づく認知機能低下のことで、元となる疾患が取り扱うことができれば認知機能の改善の可能性があることになります。

＜Treatable dementiaの可能性がある病気・病態＞

- ・ ビタミン欠乏症：ビタミンB1、ビタミンB12 など
- ・ 甲状腺機能低下症
- ・ 電解質失調(低ナトリウム血症、高カルシウム血症など)
- ・ 腎不全
- ・ 高アンモニア血症(慢性肝疾患に多い)
- ・ 正常圧水頭症
- ・ 慢性硬膜下血腫

(臨床雑誌内科 129巻 6号より、一部改訂)